

令和元年度 校友会 活動実績報告

(卓球)部

顧問名 (前田理絵 国府田豊己)

活動方針 : 本部活動においては、一切の体罰・暴力を行いません。

1. 目標

- ① 団体都ベスト16のキープ
- ② 基本的な生活習慣の会得と向上

2. 目標達成の手立て

① 日々の練習で卓球の技術向上をしていく。基本は生徒主体で練習メニューを組み立てる。基礎打ち・課題練習・ゲーム練習を組み合わせながら、技術の向上と、試合で勝てる精神力を身につける。

技術の定着の確認と新たな課題の発見を目的としてまた、練習試合やオープン戦への出場の機会を設ける。

② 日々の練習であいさつや時間厳守、学年を超えた仕事の分担と協力をしていくことで、基本的な生活習慣を身につける。練習試合での他校訪問や大会会場での振る舞い、行動等も留意し、競技者として恥ずかしくない態度を身につけて行く中で、卓球を超えた日常生活全般にも活用できる、基本的な生活習慣の取得と向上を目指す。

活動報告(上記の活動方針を下に取り組んだ1年間の総括)

①

主力選手の引退等もあり、なかなか団体での勝利にはつながらなかった。1年生の入部者数が昨年に続き非常に多く、年度当初は思うように活動が出来なかったと感じた部員も多かったようである。練習メニューの組み立てについては、顧問側で組み立ててしまうことも多かった。卓球台をすべて出しても、余ってしまう生徒がいるため、満足のいく練習にはならないこともあったが、合宿以降になると練習参加者は能動的な活動をし、技術力・精神力の向上に努めた。特に、11月の新人大会終了後はフォーム改善等の基礎技術の向上から努めてきた。年度が変わった春以降の成績へとつなげていきたい。

②

練習への参加率の低迷、練習や試合時間の厳守が課題となった。練習への意欲低下が明らかとなり、他の士気を奪う流れにもなりかけていた。練習に定常的に参加する層については満足いくまでには至っていないが、時間、仕事の分担、協力等含めて順調に成長してきている側面が見られる。卓球を通して恥ずかしくない態度(挨拶・返事・時間)を身につけ、他の学校生活や社会生活全般で活用出来る能力を少しずつだが養ってきている。